



幼児期からの環境教育

高学年

【学びの形態】

学ぶ

活かす

【出会い】

テーマを設定し探究する中で

【目指す姿】

自らテーマを設定し主体的に問題解決しようと実践する姿



中学年

【学びの形態】

気付く

学ぶ

【出会い】

教科という領域にて

【目指す姿】

「理科の見方・考え方」を気づきをもとに楽しむ姿



低学年

【学びの形態】

感じる

気付く

【出会い】

生活の幅を広げる中で

【目指す姿】

感じたことを意欲的に表現する姿



幼児

【学びの形態】

遊ぶ

触れる

感じる

【出会い】

手を加えない自然の中で

【目指す姿】

自由に・創造的に自然の中で遊ぶ姿



概要

大自然に恵まれた立少の環境を活かし、意図的・計画的に自然体験活動を組み込むことにより、自然に対する興味関心を高め、感性を育もうとすることが、環境教育にとって重要である。幼児期の森や沢での自然体験活動と、小学校の生活科・理科・社会・総合的な学習の時間等の教育課程と関連付けた体験型環境学習とがつながりをもつようプログラムを組み立てたことで、体系的な環境教育プログラムの提供が可能。

「暴れ常願寺川」

5・6年生

● 地域を流れる常願寺川を河口から上流へと移動し、現地での環境学習を通して、5年理科「流れる水の動き」の学習や防災に関連した治水事業等を学ぶ。また、本施設に戻り映像資料等を使いまとめの学習を行う。



「森・川・海・水辺の環境しらべ隊」

3～6年生

● 上流から河口へ移動しながら、大型河川の成り立ちや、河川と人との関わりを学び、森・川・海・人のつながりについて体験を通して理解する。



● 水質指標生物調査を行い、川の水の水質を知るとともに、川原や海岸に落ちているごみを調査する活動を通して、水の実環境について知識を深める。

「冬の森で生きる」

3・4年生

● 寒さから身を守る冬芽（命のカプセル）の工夫。厳しい冬の寒さから葉や花を守る工夫を観察を通して学ぶ。色や形の面白さについても同時に観察し、学習への動機付けとする。

「見つけた秋で何したい？」

1・2年生

● 「秋を見つける」「見つけた秋をつかって〇〇する」という2つの活動の中で、自然を感じる、自然の変化に気付く学習を行う。さらに、自分の感じたこと（考えたこと）を意欲的に表現（言葉・活動・作品等）する活動を行う。

「トントンたんけん隊」

未就学児

● アオゲラ（キツツキ）が住んでいる森。その森の名は「トントンの森」。森や沢の自然の中で様々な活動を通して、自然と触れ合ったり、身体を動かしたりする機会を提供する未就学児対象の自然体験プログラム。

● 友達と仲良く、ドロドロ・ビシャビシャになって遊ぶ！

● おもしろい、きれい、ふしぎをたくさん見付ける！

● 自分の力で最後まで頑張る！

6年理科

・人と環境との関わり

5年理科

・流れる水の動きと土地の変化

5年社会

・地理的環境の特色

総合的な学習の時間

・環境教育

・SDGs



4年理科

・季節と生物

・雨水のゆくえと地面のようす

・自然のなかの水のすがた

4年社会

・自然災害から人々を守る活動

3年理科

・身の回りの生物

1・2年生活科

・季節の変化と生活

・自然や物を使った遊び

既存のトントン探検隊

・ドロドロ・ビシャビシャ体験

・コース選択可

・指導スタンダード配布

・ハートントンの森で活動

